

平成29年度 全国学力・学習状況調査 小田原市の結果について

小田原市教育委員会

目 次

1 はじめに

2 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査の方式
- (3) 調査の実施日および調査の対象
- (4) 調査の内容
- (5) 調査結果の見方
- (6) 本市の基本的な考え

3 各教科の平均正答率

- (1) 平成29年度 各教科の平均正答率一覧
- (2) 過去3年間の全国平均との比較グラフ

4 調査結果のポイント

- (1) 主な成果について
- (2) 主な課題について



1 はじめに

平成29年4月に実施された「平成29年度全国学力・学習状況調査」の本市の調査結果の概要についてお知らせします。結果については、市全体の平均正答率等、数値を全国の数値と比較する形で公表しております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の側面であることを踏まえ、結果については、序列化や過度な競争につながらないよう十分配慮して取り扱う必要があります。従って、本内容をご活用の際にはこの趣旨を十分ご理解いただき、適切な取扱いをされますようお願いいたします。

2 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の方式

悉皆調査

参考	・平成19～21年度	悉皆調査	国語、算数・数学
	・平成22年度	抽出調査	国語、算数・数学
	・平成24年度	抽出調査	国語、算数・数学、理科
	・平成25・26年度	悉皆調査	国語、算数・数学
	・平成27年度	悉皆調査	国語、算数・数学、理科
	・平成28・29年度	悉皆調査	国語、算数・数学
	※ 平成23年度は東日本大震災のため予定していた抽出調査を中止		

(3) 調査の実施日および調査の対象

平成29年4月18日（火）

- ・小学校第6学年（市内25校、約1,500名）
- ・中学校第3学年（市内11校、約1,600名）

(4) 調査の内容

① 教科に関する調査

- ・国語A、算数・数学A（主として「知識」に関する問題）
- ・国語B、算数・数学B（主として「活用」に関する問題）

② 質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

(5) 調査結果の見方

本調査の結果で示されている平均正答率については、文部科学省の考え方に準じて整理している。

(参考)

各都道府県（公立）の状況については、平均正答率を見ると、28年度同様、ほとんどの都道府県が**平均正答率の±5%の範囲内にあり、大きな差は見られない。**

出典：平成29年度全国学力・学習状況調査 報告書(平成29年8月 文部科学省 国立教育政策研究所)

(6) 本市の基本的な考え

小田原市教育委員会では、本調査の結果について次のような考えを基本としている。

本調査で測定できるのは「学力の特定の一部」であり、地域性や家庭環境等による影響も受けるものと認識しているが、調査問題は、学習指導要領の目標・内容等に基づいて作成されたものであり、その結果は、児童生徒の学力の側面を示す客観的な資料である。

3 各教科の平均正答率

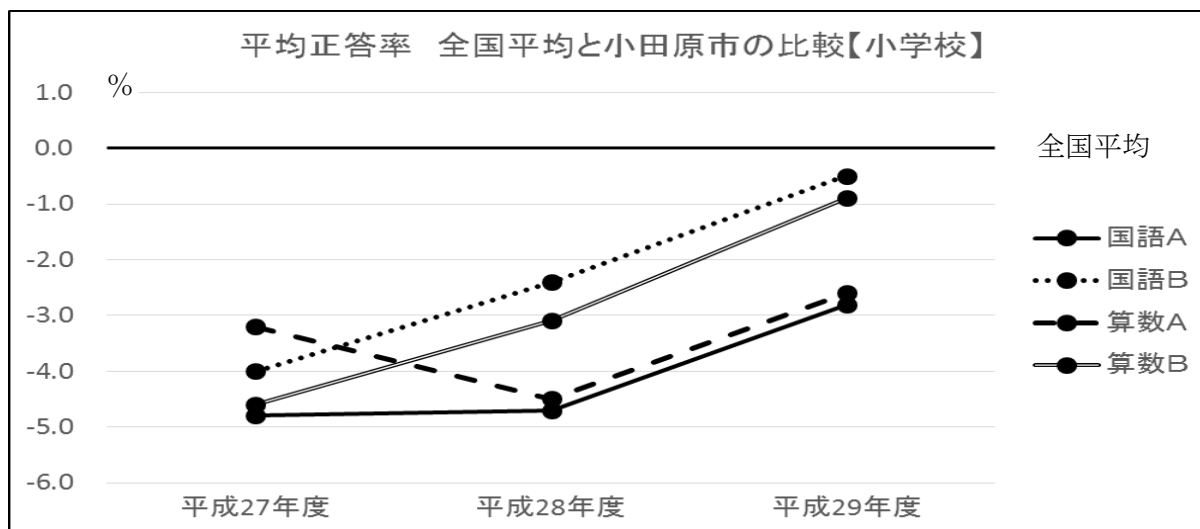
(1) 平成29年度 各教科の平均正答率一覧（単位は%）

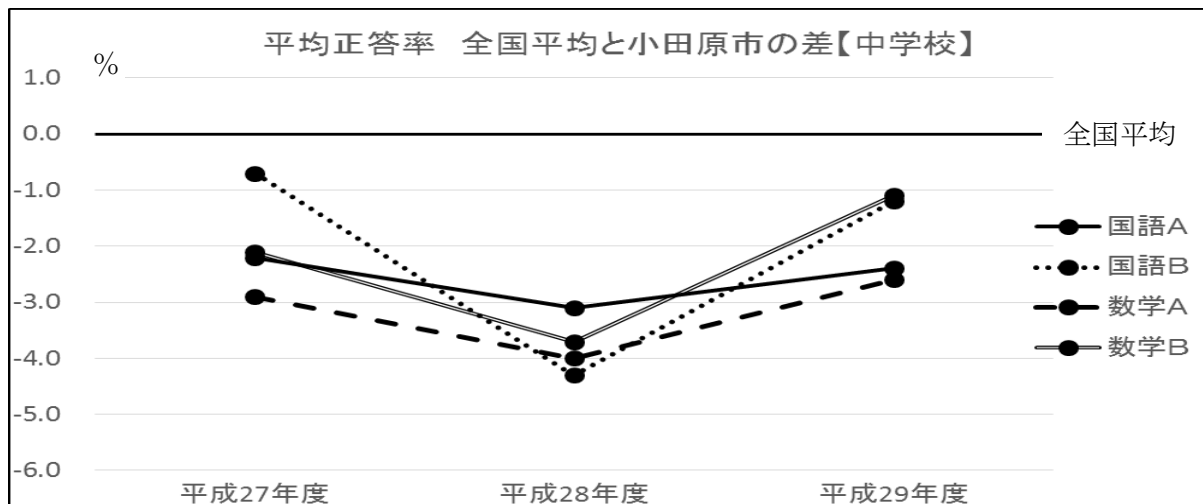
	教 科	小田原市	神奈川県	全 国	全国との差
小 学 校	国語A	72	73	74.8	－2.8
	国語B	57	57	57.5	－0.5
	算数A	76	77	78.6	－2.6
	算数B	45	46	45.9	－0.9
中 学 校	国語A	75	77	77.4	－2.4
	国語B	71	72	72.2	－1.2
	数学A	62	64	64.6	－2.6
	数学B	47	48	48.1	－1.1

※平成29年度調査より、市や県の正答率は整数表示となった。

- ・小中学校ともすべての教科において「全国平均正答率±5%」の範囲内にあり、学力は、「全国と大きな差はない」状況である。
- ・小中学校ともに、国語も算数・数学もB問題（主に活用）よりも、A問題（主に知識）に課題がある。

(2) 過去3年間の全国平均との比較グラフ





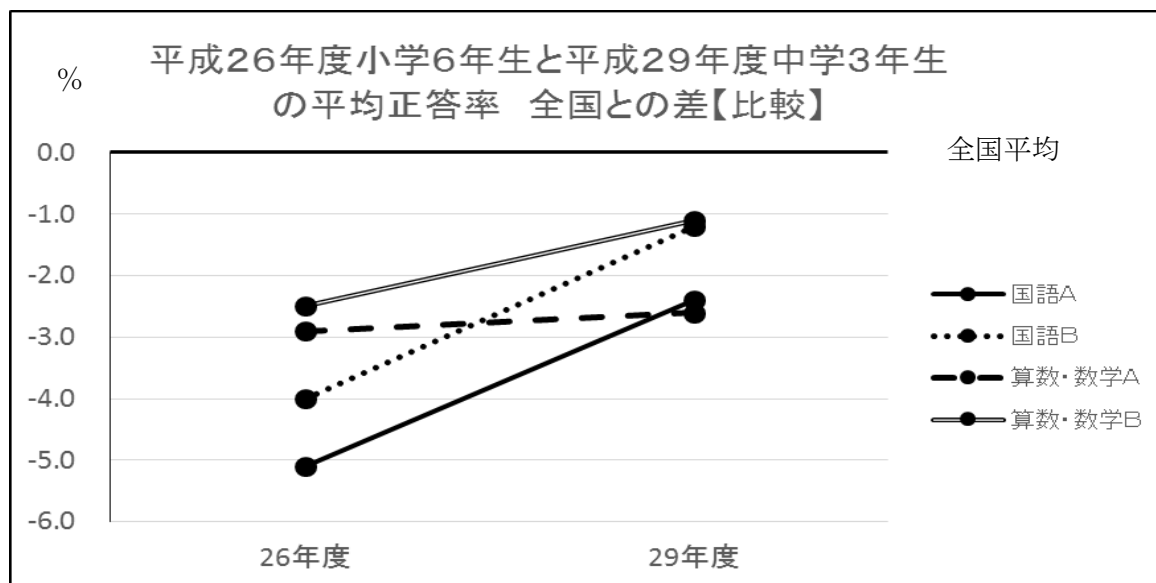
- ・小中学校ともに、全国平均との差が縮まっている。
- ・小学校は、3年連続で全国平均との差が縮まっており、各学校の教科指導の充実ぶりがうかがえる。
- ・小中学校ともに、B問題の方が全国平均に近く、児童生徒の思考力を伸ばす授業改善の成果であると考えられる。一方で、漢字力や計算力など着実な定着もめざしていきたい。

4 調査結果のポイント

(1) 主な成果について

【成果 1】

平成29年度の中学3年生は、3年間で数値の向上が見られます。

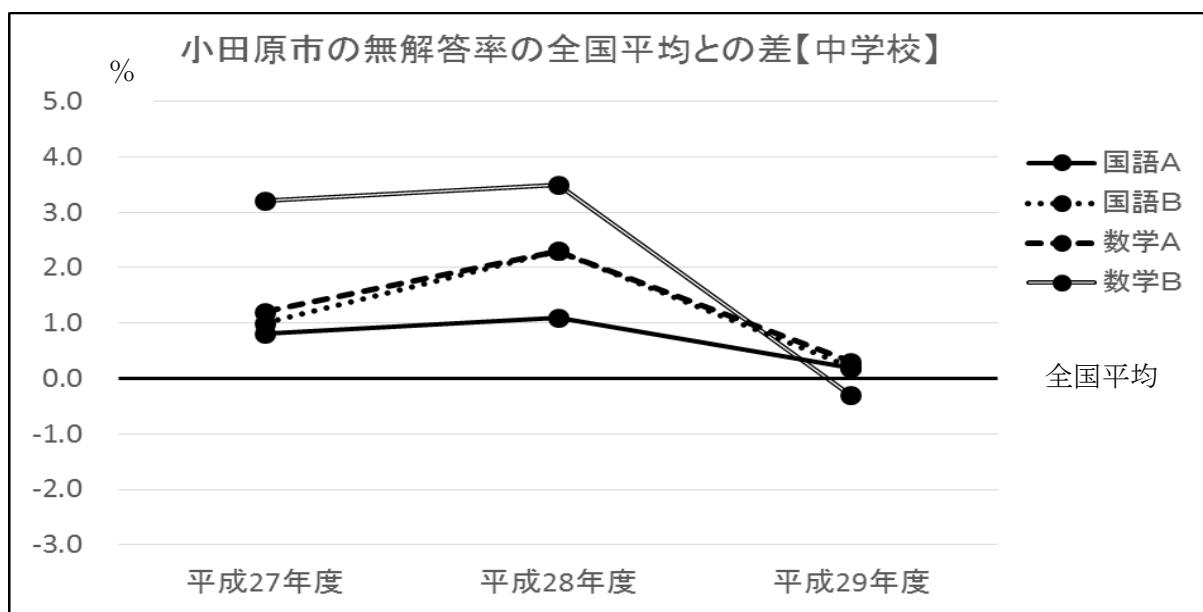
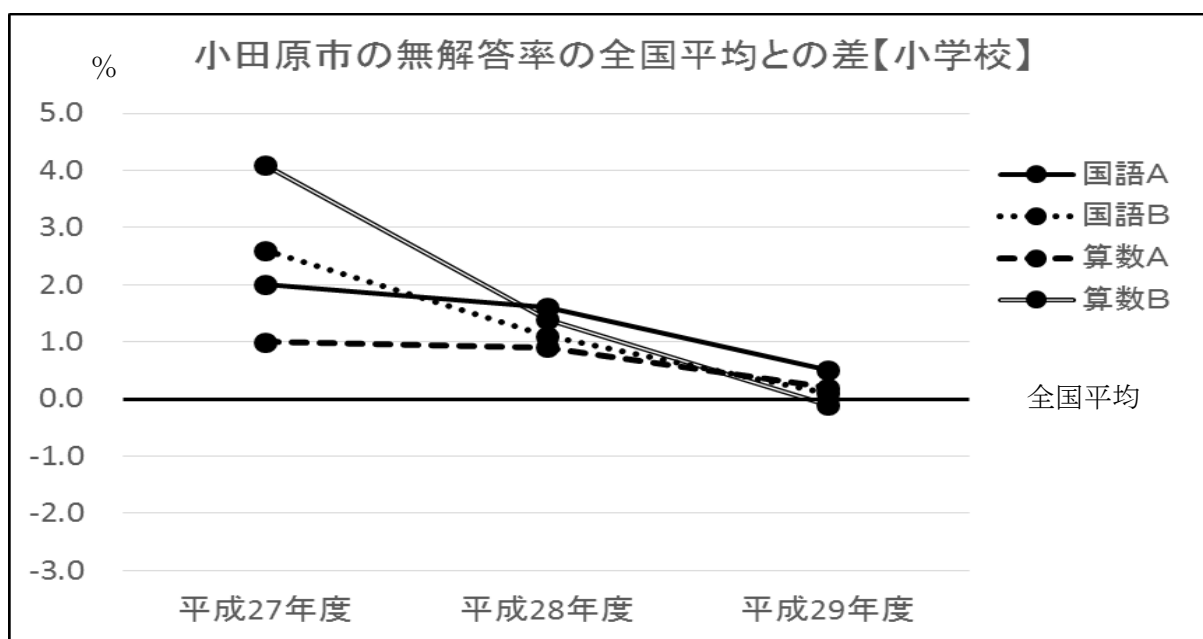


○平成29年度の中学校3年生の結果を、平成26年度の小学校6年生の結果と比較し、同じ集団の3年後の変化を見ると、全国平均との差が－2ポイント～－5ポイントあったものが、1ポイント～2ポイント程度向上している。

平成25年度の小学6年生と平成28年度の中学3年生の比較に続き、2年連続で中学3年生において平均正答率の向上が見られた。各学校で行っている指導方法等に関する研究や各中学校区を単位に行っている小中合同の研究会での取組の成果が現れてきている。

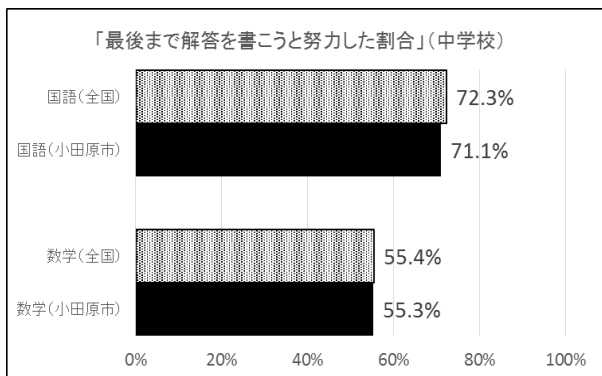
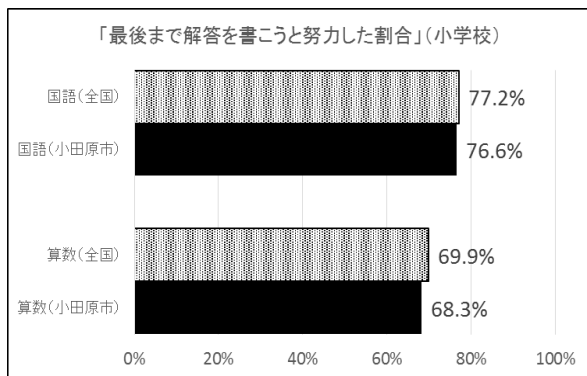
【成果 2】

無解答率に改善傾向が見られます。

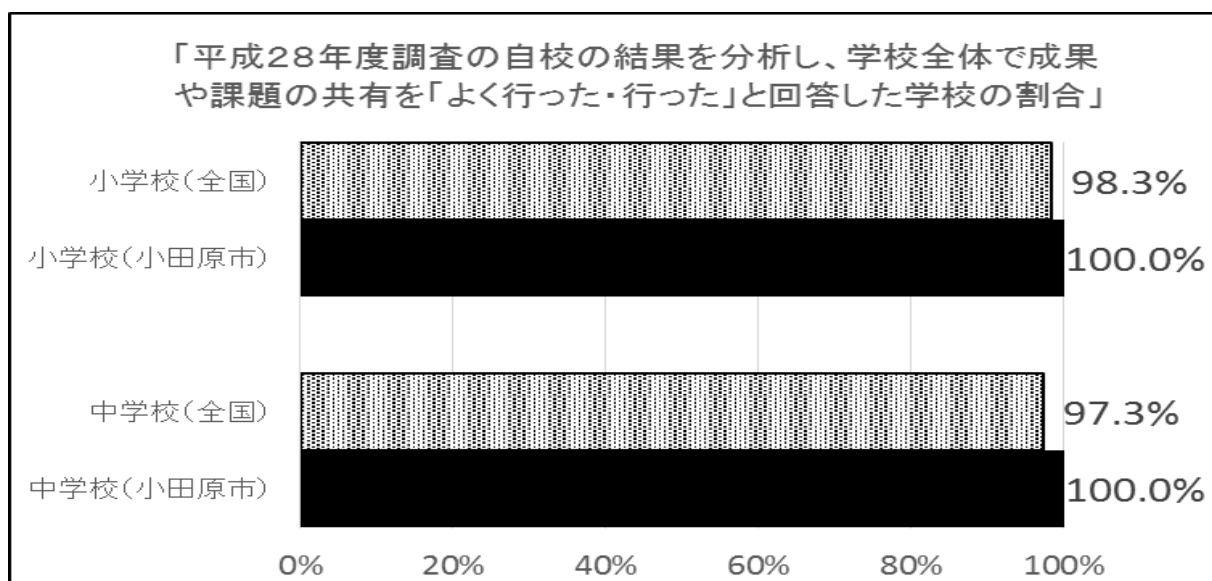
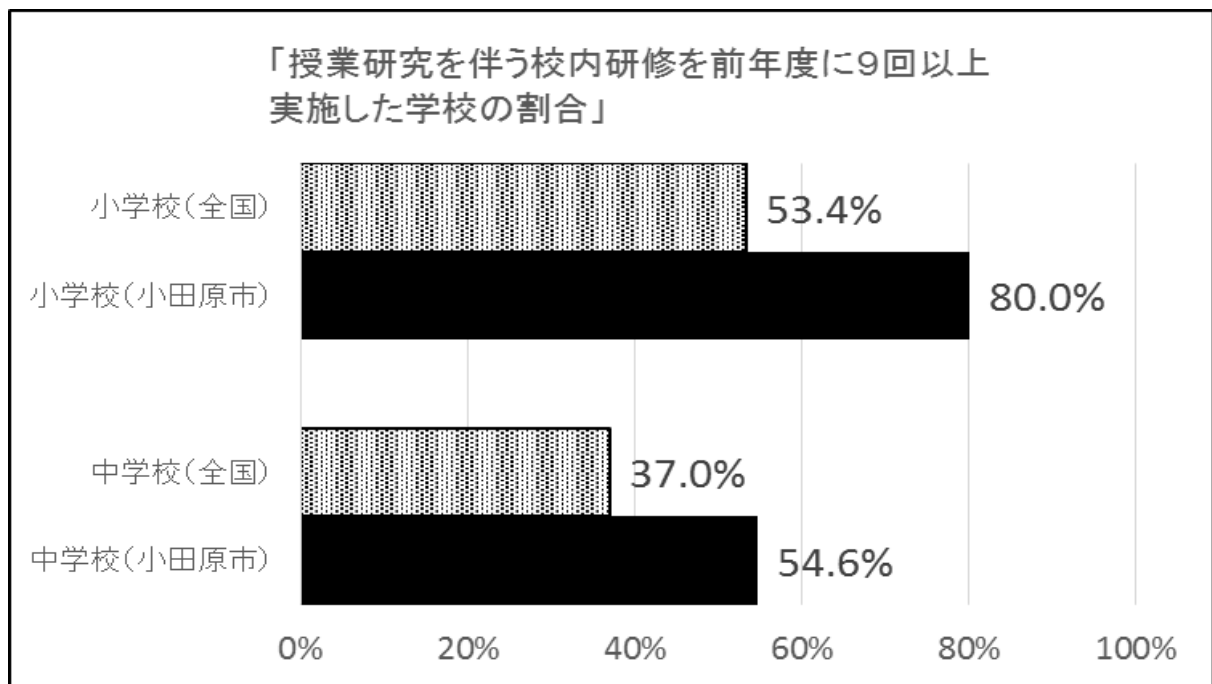


○小中学校とも、すべての教科で、無解答率が改善しており、ほぼ全国平均並みとなっている。

本市の無解答率は、上のグラフのとおり、平成27年度においては、全国平均を上回り課題であった。昨年度より市の重点目標に「無解答率の改善」を掲げ、各学校で重点的に指導した結果、平成28年度、平成29年度と改善傾向が続き、ほぼ全国平均並みとなった。児童生徒質問紙において、「最後まで解答を書こうと努力したか」という質問に対し、「努力した」と回答した割合を示したものが次のグラフである。昨年度より努力した割合が増えており、児童生徒の全国学力・学習状況調査に対する意識の変容がうかがえる。



【成果 3】 教員は、指導力向上をめざした研究・研修を積極的に行っています。

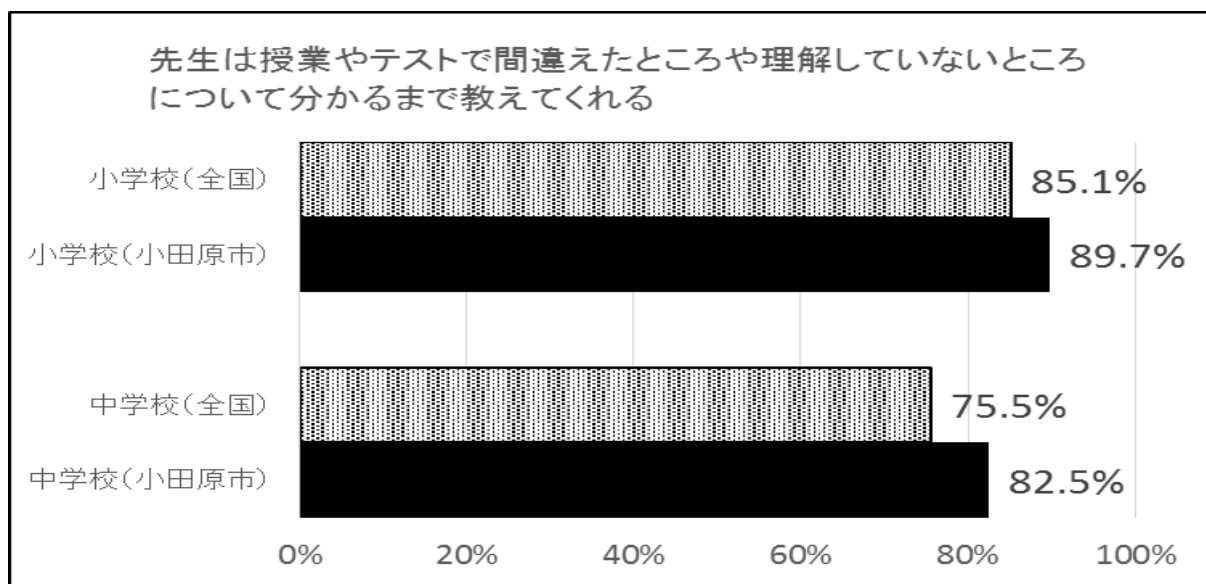
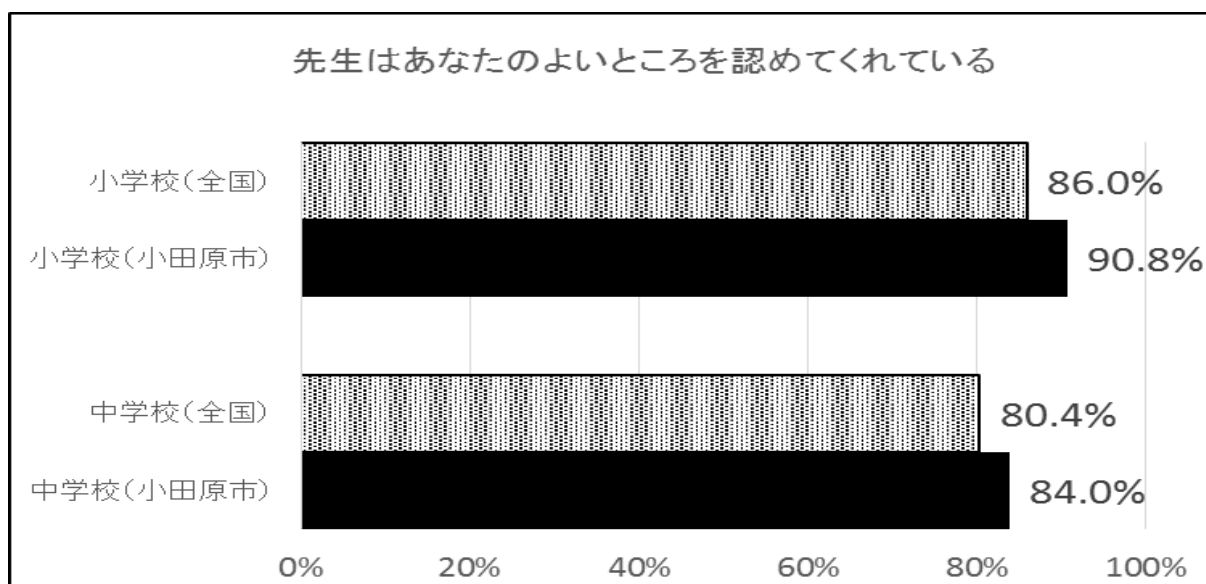


○学校質問紙の「授業研究を伴う校内研修の実施回数」や「全国学力・学習状況調査の結果を分析している学校の割合」の質問で、本市はすべての学校が分析を行い、全国を大きく上回る授業研究を伴った校内研修を実施している。

本市の小中学校では、教科指導を中心とした指導法改善に関する校内研究を行っている学校が多い。研究会の多くは授業研究を伴ったものであり、教員の指導法改善に対する高い意識が表れている。また、すべての学校が全国学力・学習状況調査の自校の結果を独自で分析し、成果や課題の共有を行っており、校内研究と関連付けて学力向上に活かしている。

【成果 4】

子供たちは先生に対し、よいところを認めてくれる、分かるまで教えてくれるという見方をしています。



○児童生徒質問紙の「先生はあなたのよいところを認めてくれている」、「先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて分かるまで教えてくれる」において、肯定的な回答をした割合が小中学校ともに全国平均を超えている。

本市の児童生徒と教員の関係はおおむね良好であるといえる。今後も教員が児童生徒一人ひとりに誠意をもって接し、学級経営や児童生徒指導、教科指導など、きめ細やかに行っていく必要がある。教科指導については、日頃から積極的に校内研究等に取り組んでいる成果が現れている。

(2) 主な課題について

＜課題 1＞ 漢字力や計算力などの正答率に課題が見られる。

【平成 29 年度調査 漢字と計算に関する設問の平均正答率】

【小学校 国語 A】(数値は平均正答率、単位は%)

設 問	小田原市	全 国
【漢字を読む】 「申しこみ <u>期限</u> 」	91.8	94.5
【漢字を読む】 「 <u>事務</u> 室前」	90.2	88.8
【漢字を読む】 「 <u>指</u> 示」	92.1	94.5
【漢字を書く】 「参加 <u>たい</u> しょう」	26.8	42.0
【漢字を書く】 「 <u>き</u> ぼう者」	80.2	80.0
【漢字を書く】 「箱が <u>お</u> いてあります」	70.0	76.8
平 均	75.2	79.4

【中学校 国語 A】(数値は平均正答率、単位は%)

設 問	小田原市	全 国
【漢字を読む】 「 <u>覚</u> 悟を決める」	98.5	98.7
【漢字を読む】 「 <u>鮮</u> やかな色合い」	92.3	94.5
【漢字を読む】 「水が <u>垂</u> れる」	92.8	94.3
【漢字を書く】 「組織の <u>き</u> ぼ」	57.9	62.8
【漢字を書く】 「雨で <u>え</u> んき」	47.7	62.3
【漢字を書く】 「店を <u>い</u> となむ」	77.1	85.4
平 均	77.7	83.0

○小中学校ともに「漢字の読み」については、ほぼ全国平均並みであるが、「漢字の書き」については、全国平均を下回っているものが多い。

【小学校 算数 A】(数値は平均正答率、単位は%)

設 問	小田原市	全 国
1 2 3 × 5 2 を計算する	83.9	85.2
1 0 . 3 + 4 を計算する	77.9	79.7
6 + 0 . 5 × 2 を計算する	63.7	66.6
5 ÷ 9 の商を分数で表す	67.9	69.2
8 と 1 2 の最小公倍数を求める	83.9	86.2
平 均	75.5	77.4

【中学校 数学 A】(数値は平均正答率、単位は%)

設 問	小田原市	全 国
$\frac{5}{9} \times \frac{2}{3}$ を計算する	86.4	87.1
$10 - 6 \div (-2)$ を計算する	66.3	75.6
$(2x + 5y) - (6x - 3y)$ を計算する	75.0	78.5
等式 $x + 4y = 1$ を y について解く	56.2	56.1

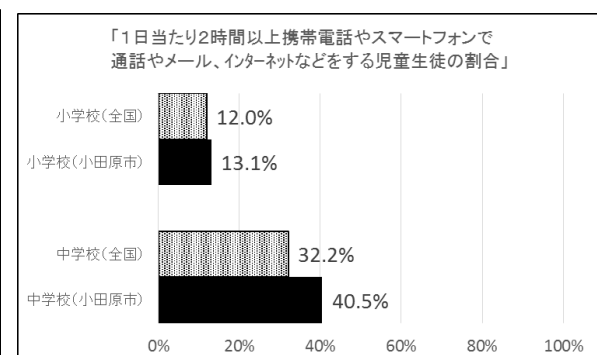
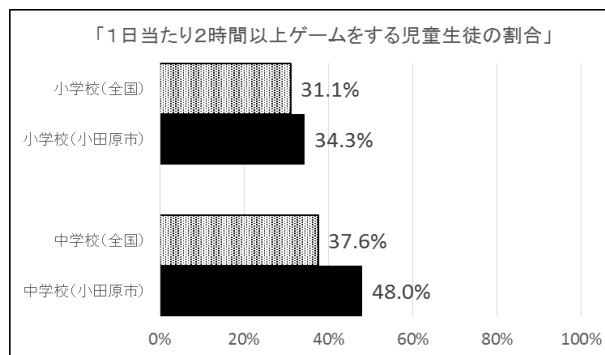
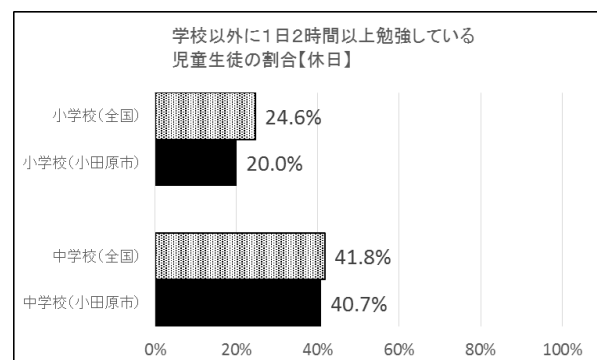
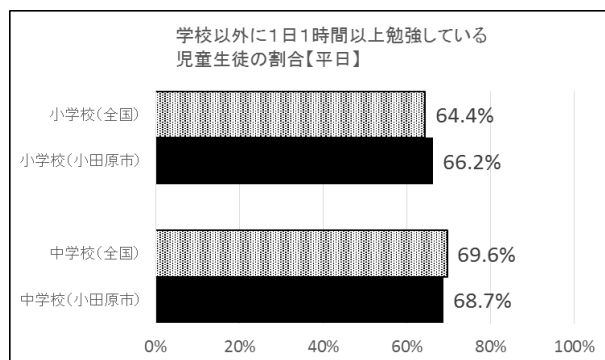
一元一次方程式 $4x = 7x + 15$ を解く	79.5	82.7
連立2元方程式 $\begin{cases} x + y = 5 \\ \frac{x}{6} + \frac{y}{3} = 1 \end{cases}$ を解く	57.9	62.2
平 均	70.2	73.7

○小中学校ともに、得意・苦手といった分野は見られないが、全般的に全国平均を下回っている。

漢字力に関しては、昨年度と同様「漢字を書く」ことに課題が見られた。漢字をノート何度も書くだけでなく、前後の文脈に合った漢字を書くなどの学習の積み重ねが必要である。計算力に関しても、昨年度同様全国平均を若干下回る結果となっている。より確実な計算力を身につけるために、朝の計算タイム等を使った効果的な指導について工夫を図る必要がある。

<課題2>

家庭での時間の使い方に課題が見られます。



○児童生徒質問紙において、家庭学習の時間については、小学校の休日を除きほぼ全国平均並みとなっている。1日2時間以上ゲームをする割合や1日2時間以上携帯電話やスマートフォンでメールやインターネットを行う割合は全国平均を上回っている。

家庭学習の時間については、ほぼ全国平均並みとなったが、ゲームやスマートフォンについては、これまで同様課題となった。家庭学習の時間が改善することで、ゲームやスマートフォンの時間が減少すると考えていたが、相関関係にはなかった。また、ゲームやスマートフォンを2時間以上行う割合は、本市も全国平均も昨年度よりも大きくなり、様々な電子機器等が児童生徒にとってより身近なものになってきている。